

本会一食平和基金 平成22年次運営報告

「いのちの尊重」目指し事業展開



一食運動を通して寄せられた浄財は、今年も国内外の諸問題解決に向けた事業に役立てられた(写真は本会とSVAが協働して進める「カンボジア仏教・文化復興事業」=©SVA)

国内外への支援総額 約2億3147万円

分野	項目()は協働団体または助成先団体名	内訳(円)
貧困の削減	海外教会・拠点一食プロジェクト	1,424,450
	アフリカへ毛布をおくる運動	14,773,705
	庭野平和財団助成	30,000,000
	宗教協力助成	10,000,000
難民支援	人道緊急・復興支援事業(WFP)	5,000,000
	ゆめポッケ	20,902,005
	人道緊急・復興支援事業(ジェン)	35,000,000
	難民支援事業(JAR)	2,500,000
環境保全	国連支援助成(UNHCR)	5,000,000
	国連支援助成(UNRWA)	3,000,000
	農業・環境・地域開発事業(JVC)	5,000,000
教育・育成	エチオピア植林事業(REST)	4,505,350
	一乗ボランティア	18,161,776
	カンボジア仏教・文化復興事業(SVA)	5,000,000
福祉	国内NGO育成支援(JANIC)	5,000,000
	フィリピン奨学金支援(BCYFI)	2,326,468
緊急助成	特別助成(韓国・慶州ナザレ園)	5,000,000
	災害等見舞金・緊急助成	34,002,500
推進	一食を捧げる運動の推進	6,616,658
	広報	1,560,300
運営費	一食平和基金業務	2,666,871
	地域応援プロジェクト	3,385,000
その他	臨時助成	10,651,400
	予備費	0
総計		231,476,483

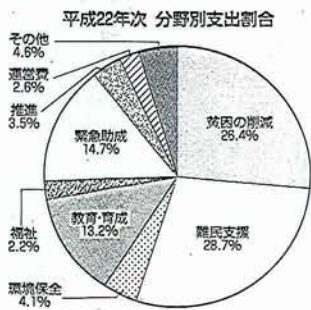
※地域応援プロジェクトは、試行期間初年度のため運営費より拠出した。

「一食を捧げる運動」ホームページアドレス
<http://www.ichijiki.org/>

「貧困の削減」「難民支援」「環境保全」など9分野に

「立正佼成会一食平和基金」の昨年次(平成22年次)の運営報告が、先ごろ同運営委員会(委員長=沼田雄司教務局長)から発表された。「貧困の削減」「環境保全」「難民支援」など9分野に拠出された支援総額は2億3147万6488円。

「一食を捧げる運動」の



実践を通じ、海外に寄せられた浄財を、同運営委員会(委員長=沼田雄司教務局長)が活用している。同運営委員会では、昨年も国内外の諸問題解決に向けた平和活動を展開。「いのちの尊重」という観点から、9分野のうち特に「貧困の削減」「環境保全」「難民支援」の推進に重点を置いて取り組むが行われた。

「貧困の削減」では、庭野平和財団に寄託助成し社会的に弱い立場にある少数先住民や女性たちを支援する「南アジアプログラム」をはじめ、深刻な食糧不足に陥るアフリカの子供たちをサポートするWFP(国連世界食糧計画)への助成、「アフリカへ毛布をおくる運動」で集められた毛布の輸送費など5事業に6110万8155円を拠出した。「環境保全」の分野では、紛争や大干ばつで疲弊したエチオピア・ティグレイ州の開発を支援するREST(ティグレイ救済協会)との協働による「エチオピア植林事業」などに900万5350円が充てられた。

「難民支援」では、特定非営利活動法人「ジェン」

貧困の削減

「庭野平和財団助成」
 同財団は一食平和基金から運営資金を受け、2004年から「貧困の削減」をテーマにインド、バングラデシュ、スリランカで「南アジアプログラム」を展開。インドでは昨年、「食の安全保障」社会的に弱い立場にある女性と子供のために「」をテーマに現地NGO2団体に資金助成し、少数民族や女性の自立支援を行った。バングラデシュでは、「テーマを疎外された最貧困にあ



【アフリカへ毛布をおくる運動】毛布を手にも喜ぶウガンダの親子。集められた毛布は難民や生活困窮者に届けられている

【アフリカへ毛布をおくる運動】毛布を手にも喜ぶウガンダの親子。集められた毛布は難民や生活困窮者に届けられている

難民支援

「人道緊急・復興支援事業(ジェン)」
 紛争や自然災害から逃れた難民、国内避難民らに対し、精神的、経済的に自立した生活を送るためのサポートを行っている。昨年は、国内外9カ所で支援事業を展開。1月に発生したハイチ大地震では発生直後から被災者にシエルトキットや食料を配布した。アフガニスタンやスーダンなどでは、衛生教育の普及、給水施設の建設に取り組み、また、公衆衛生



【ゆめポッケ】フィリピン・ミンダナオ島の子供たちに真心の込められたポッケが送られた

また、新潟県中越地震(04年10月)で甚大な被害を受けた十日町市池谷、同入山でも6年間にわたり復興を支援。過疎化を防ぐ地域振興活動として、村人と共に農作業や除雪作業に従事するボランティアの派遣などを行った。

環境保全

「エチオピア植林事業(SHUR)」
 1993年からエチオピア・ティグレイ州で、内戦、空襲、大干ばつで土地が疲弊した地域の開発を支援するプロジェクト「エチオピア植林事業」に現地NGOのRESTと協働で取り組んでいる。

「環境保全」では、庭野平和財団に寄託助成し社会的に弱い立場にある少数先住民や女性たちを支援する「南アジアプログラム」をはじめ、深刻な食糧不足に陥るアフリカの子供たちをサポートするWFP(国連世界食糧計画)への助成、「アフリカへ毛布をおくる運動」で集められた毛布の輸送費など5事業に6110万8155円を拠出した。「環境保全」の分野では、紛争や大干ばつで疲弊したエチオピア・ティグレイ州の開発を支援するREST(ティグレイ救済協会)との協働による「エチオピア植林事業」などに900万5350円が充てられた。



エチオピア・ティグレイ州でRESTと協働で進める植林事業。緑化が紛争や干ばつで疲弊した土地の保水力を高める

地域応援プロジェクト

昨年次から、各教会が主体となって同基金の浄財の一部を活用する「地域応援プロジェクト」がスタートした。会員は「一食運動」の意義や成果をより身近に感じてもらおうとすることを目的に3年間にわたり試行される。昨年度は、同運営委員会に選定された6教会が地域の諸課題の解決に取り組んだ。

「AMD A」など4団体に委託し、被災者救援に役立てられた。WFPは近隣国から高カロリービスケットを輸送し、被災者への食糧支援を実施。AMD Aは現地の医療ニーズを調査し、地震によって負傷した人たちの外科治療を行った。

緊急助成

昨年1月に起きたハイチ大地震の被害に対し、緊急支援を決定。WFPや特定非営利活動法人